

平成 30 年度 自己点検自己評価結果

1. 平成 30 年度 学校目標

- 1) 質の高い教育の維持・向上をめざす。
 - ・授業評価・卒業時評価の実施
 - ・教員の授業評価の実施
 - ・臨地実習指導の充実：臨床との連携
 - ・教育内容の検討
- 2) 質の高い学生を確保し、国家試験合格率 100%をめざす。
 - ・募集活動（応募者数・入学者数の確保）
 - ・HP の充実
 - ・国家試験対策（学年間の情報交換）
- 3) 母体病院及び機構病院への就職者の確保。
 - ・母体病院への就職率 60%
 - ・機構病院への就職率 90%
 - ・進路相談
 - ・機構病院の説明会の実施・インターンシップ参加
- 4) 職務満足度の向上
 - ・授業研究の実施・参加
 - ・研修会・学会参加と伝達（学習会・抄読会等の企画）
 - ・学会発表・投稿
 - ・年次休暇の計画的取得
 - ・時間外勤務の軽減

2. 自己評価・相互評価結果（4段階評価：4:適切、3:ほぼ適切、2:やや不適切、1:不適切）

評価カテゴリー	評価内容の概要	自己評価	相互評価
I. 教育理念・目標 (小項目 5 項目)	理念・目的・育成人像が定められているか、学校における職業教育の特色、将来構想が明確になっているか、学生・保護者へ周知されているか等	3.4	3.8
II. 学校運営 (小項目 8 項目)	目的・事業計画に沿った策定、運営組織や意思決定機能が明確か、人事・給与に関する制度の整備、 教務・財務の組織整備、コンプライアンス体制の整備、情報公開等	3.7	3.8
III. 教育活動 (小項目 16 項目)	教育課程の編成・実施方針等の策定、修業年限に応じた教育到達レベルや学習時間の確保、カリキュラムや教育方法の工夫・開発、関連分野企業や業界団体との連携によるカリキュラムの策定、カリキュラム評価体制、指導体制、教員の確保等	3.1	3.5
IV. 学修成果 (小項目 5 項目)	就職率向上、退学率の低減、卒業生・在校生の社会的活躍、卒後のキャリア形成等	3.8	3.8
V. 学生支援 (小項目 10 項目)	進学・就職への支援、学生相談体制、学生への経済的支援体制、健康管理・生活環境支援、課外活動への整備、卒業生への支援体制等	3.9	3.9
VI. 教育環境 (小項目 3 項目)	施設・設備の整備、学内外での教育体制整備、 防災体制等	3.0	4.0
VII. 学生の受け入れ 募集 (小項目 3 項目)	学生募集活動の適正性、募集活動における教育成果、学納金の妥当性	4.0	4.0
VIII. 財務 (小項目 4 項目)	中長期的な財政基盤の安定性、予算・収支計画の有効性と妥当性、会計監査の適正、財務情報化公開の体制整備	3.2	3.5
IX. 法令等の遵守 (小項目 5 項目)	法令・専修学校設置基準の等の遵守と適正な運営、個人情報保護の対策、自己評価の実施と問題点の改善、自己評価結果の公開等	3.6	3.6

X. 社会貢献・地域 貢献 (小項目 3 項目)	学校の教育資源・施設を活用した社会貢献・地域貢献、学生のボランティア活動、地域に対する公開講座や教育訓練の実施	3.3	4.0
XI. 国際交流 (小項目 4 項目)	留学生の受け入れ・派遣についての戦略・適切な手続き・体制等（必要に応じて）	1.0	2.0

3. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果（自己評価）

1) 質の高い教育の維持・向上をめざす。

・評価について

学生による評価を7月・3月に、授業評価・実習評価を年間通して対象学生に実施した。その結果から、施設の整備（学生玄関前屋根の設置、寮内電気配線の変更、図書室シュレッダー新規購入）を行うとともに、講義や講師・教員に対しての要望について全学生へフィードバックすることで、教育環境の整備に務めた。

・臨床との連携

4月に指導者会議を実施し、年間計画・実習担当者の周知を行い、臨床と教員の連携がはかりやすい環境となった。また、専門基礎分野Ⅰや統合分野の演習について臨床より20名の看護師の協力を得ることができ学生の学びを深める機会となった。

2) 質の高い学生を確保し、国家試験合格率100%をめざす。

・募集活動（応募者数・入学者数の確保）

推薦指定校をすべて訪問し、募集活動を行った。学校説明会6回実施し、総参加人数127名（昨年度より11名増）内保護者67名（昨年度より17名増）であった。しかし、平成31年度受験生は、推薦入学者12名、一般受験者68名（昨年度より12名減）と昨年度より減少し、次年度入学内定者数は、推薦12名、一般入学生24名と定員割れの状況となっている。次年度に向け、指定校の検討、県内高等学校への一般入学試験募集活動、社会人に向けた専門実践教育訓練指定講座の取得・高等教育無償化等の実施に向けた検討を行っていく。

・HPの充実

H30年2月よりHPをリニューアルすることができた。今後は、定期的・タイムリーな更新ができるシステムの構築を実施していく。

・国家試験対策（学年間の情報交換）

各学年で、年間計画を作成し学生の状況を把握し、適宜面接を行いながら、国家試験対策を実施することができた。しかし、準備や成績管理に時間を要することから、模擬試験業者のシステムや講師の活用を検討する。第108回の国家試験自己採点結果では、必修8割を超えていない学生が1名、一般状況設定6割に満たない学生1名おり、100%合格は難しい状況である。普段の学習状況からも、成績が低迷していた学生であり、次年度に向け低迷者への対策強化が必要である。

3) 母体病院及び機構病院への就職者の確保。

- ・各学年で、随時進路指導面接を実施した。また、4月1年生病院見学、11月に1・2年生対象の県内病院及び甲府病院の病院説明会を実施した。県内施設からのインターンシップ・ボランティア活動・研修等のお知らせを随時学生に提示し、見学や体験の機会を設けた。結果、3年生の母体病院就職受験者は60%となったが、2名不合格であったため、就職率は54%、機構病院就職率は97%。

4) 職務満足度の向上

- ・教員研究助成金を活用し、8人中7名（1名は育児休暇取得）の教員が1つ以上の学会及び研修会に参加できている。しかし、教員間で学んだ内容の共有が1回のみであった。勤務として出席していることから、得た知見を教員間で共有する時間の確保ができるよう計画的な取り組みを検討する。本年度は、筆頭研究者として研究発表した教員は0名であった。
- ・当校での授業研究を1回実施し、当校の教員を含め0名の参加があった。他校への研究授業に参加した教員は2名であった。次年度に向け、目標値を設定し、他校の教員の授業に参加することや、校内での研究授業を実施し教育力向上を目指す。
- ・年次休暇の計画的取得、時間外勤務の軽減
病欠休暇取得や育児休暇取得の教員がいたために、勤務している教員への業務量が増加し、計画的な年休取得や時間外勤務の軽減にはいたらなかった。また、業務と業務以外の選別が難しい教員業務の中で、適正な勤務時間管理に至っていない現状がある。次年度より、5日以上年休取得や適切な勤務時間管理がより厳しく求められることから、業務内容の整理を行うと共に教職員個々の意識改革を行い、勤務時間を意識した業務の実施が行える体制を整えていく必要がある。

<総合評価>

目標はおおむね達成できた。

次年度の取り組む課題は以下の2点である。

1. 質の高い学生の確保及び国家試験100%
 - 1) 指定校の見直し、募集活動を実施する高等学校の検討
 - 2) 国家試験対策の見直し 成績低迷者へのフォロー対策の検討
2. 職務満足度の向上
 - 1) 教育力向上に向けた研究授業の実施
 - 2) 計画的な年休取得と適正な勤務時間管理

4. 学校間相互評価結果（評価校：横浜医療センター附属横浜看護学校）

1) 質の高い教育の維持・向上をめざす。

質の高い教育の維持向上は努力されていることがわかる。30年度のカリキュラム満足度調査の結果を用いて、さらに改善を進めていただきたい。

2) 質の高い学生を確保し、国家試験合格率100%をめざす。

学生確保については今後も困難な状況が予測される。今後も地域の高校生を対象にした就職説明会に積極的に参加することや、推薦指定校の検討など引き続き募集活動に力を注ぎ学生確保につとめていただく。

3) 母体病院及び機構病院への就職者の確保。

次年度も目標達成に向け努力を続けていただきたい。

4) 職務満足度の向上

年次休暇の取得や時間外労働については人数に限りがあり困難な状況ではあるが、計画的に取得することで職員のモチベーションの維持にもつながると考えられるため調整していく